

**平成 24 年度日本語研究推進事業
実践報告資料集**

兵庫県教育委員会

目 次

1	神戸市立中央小学校	1 ページ
2	芦屋市立潮見小学校	7 ページ
3	伊丹市立天神川小学校	12 ページ
4	姫路市立琴陵中学校	15 ページ

[学校名：神戸市立中央小学校]

【具体的な研究テーマ】

自分の思いを進んで日本語で表現しようとする子どもの育成

1 教科：単元名 算数：三角形と四角形	
2 実施日（時期） 平成24年11月（研修は5月～2月）	3 実施場所 2年3組教室
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 児童の様子…学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など 2年生（どちらも、クラスの中に1名） A：中国 … 生活言語はほぼ習得できているが、学習のなかでは分からない言葉が多く、指示を理解することが難しいときがある。 B：フィリピン…生活言語での会話も難しく、学習のなかでは「分からない。」とあきらめてしまう。個別で説明するときも絵図が必要なことがある。 (2) 日本語指導にかかる目標 教科学習の中で必要な学習言語を獲得し、意欲をもって学習に取り組むことができるよう授業を改善する。 (3) 主な学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 点と点をつないでいろいろな三角形や四角形をつくる。 ・ 身の回りから三角形や四角形を見つける。 ・ 長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めて模様をつくる。 	
5 評価の観点 <ul style="list-style-type: none"> ○ 三角形、四角形の意味が分かる。 ○ 直線で囲む。点を直線でつなぐ。紙を切って三角形や四角形をつくることができる。 	
6 指導内容の概要（※指導案別途添付） <ul style="list-style-type: none"> ・ 「三角形」と「四角形」の用語とその定義を知る。 ・ 提示された図形を見て三角形と四角形を見つけ、そのわけを説明する。 ・ 身の回りから三角形や四角形を見つけ、そのわけを説明する。 ・ 「直角」を知り、三角定規の直角で身の回りの直角を見つける。 ・ 紙を折り、長方形や正方形をつくることを通して、それぞれの形について理解する。 ・ 身の回りから、正方形や長方形の形のものを見つける。 ・ 長方形や正方形の紙を2つに分けて、できた形の特徴を、かどの形に着目して調べ、「直角三角形」の用語と定義を知る。 ・ 作図の仕方を話し合ったり、確かめたりする。 ・ 切った色紙を2枚並べて、長方形や正方形、直角三角形をつくる。 ・ 模様を見て、作り方を考え、実際につくってみる。 ・ つくった模様から、いろいろな形を見つけ、発表する。 <p>○ 上記のような学習を通して、子どもたちが三角形や四角形の定義をことばとして獲得し、また、そのことばを用いて形の説明ができるようにする。「大切なことば」は、指導の中で繰り返し用いるようにする。</p>	

7 指導内容・方法において工夫したところ

- ・ 操作活動を多くとり入れ、「三角形」や「四角形」をあらわすことばを形としてイメージできるようにした。
- ・ 板書計画を作成し、ワークシートと合わせることにより、学習の流れが分かりやすいようにした。
- ・ 発問をシンプルに、かつ訊ねていることがはっきりと分かるようにした。また、子どもたちが「どのように答えればよいのか」が分かるように答え方を説明し、具体的な「ことば（答え方）」を指導した。

8 教材・教具

- ・ ワークシート（ことばの穴うめ）
- ・ ヒントカード
- ・ 折り紙

9 活動の様子（写真等）



板書もシンプルに
何が大切なのがはっきりするように。



10 児童・生徒の感想等

- ・ 感想文を書くところまでの力は、まだまだ、つけさせられてはいないが、5月から日本語指導研修を積み重ね、日々の授業を工夫することにより、「どうせ分からない。」と座っているだけだった子どもが、少しずつ変化したことが学習態度でわかった。

《この単元を通して》

- ・ 板書を視写するときにも、ノートの方眼枠を意識して文字を丁寧に書くようになった。また授業中に「なんで？」や「分からない。」「何するの？」と質問するようになった。「分かりたい」という気持ちが表れ、学習に対して意欲を持って取り組むようになった。
- ・ 「線3本で三角形、4本で四角形だとわかりました。」「線がまっすぐじゃないから、三角形じゃありません。」など、答えられるようになった。
- ・ 簡単な質問なら「分かった」と挙手をし、発表をするようにもなってきた。「三角形と四角形がわかったよ。算数はおもしろいよ。」という感想を聞くことができた。
- ・ 授業を分かりやすく改善することで、子どもが自ら意欲をもち、学力が身についてきたと思う。

11 日本語習得度チェックシートの活用と効果など

- ・ 本校では、日本語指導教室を併設しており、日本語教師連絡協議会の先生方にボランティアでご指導いただいている。本校に在籍する日本語を母語としない子どもたちは、日本語指導教室で日本語の習得度もはかっている。日本語指導教室との連携で子どもたちが生活言語を習得し、分かりにくいことばがあれば、お互い連絡を合せて日本語指導の中で、また、授業の中で、解決していくようにしていく。

12 実践をとおしての成果

- ・ 本校では、多くの学年、学級に日本語を母語としない子どもたちが在籍している。そこで、今年度の日本語指導研究は、それぞれの学級の授業で、子どもたちが日本語を使い、自分の思いを書いたり、話したりして表現できる力を身につけられることをめざして、研修を進めてきた。担当だけでなく、多くの教師が、誰にとっても（母語がどこであっても）分かりやすい授業を作ることができるよう研鑽を積み重ねた。大阪教育大学の臼井准教授に、ほぼ毎月のように指導をいただいた。教科授業の中で、「ことばを教える」こと、そして、指導したいことを身につけさせるために、「分かりやすい授業を組み立てる」ことを大切にするという助言をいただいた。

日本語指導研修	
4月	
5月	・「日本語を母語としない子どもたちの学力向上」（臼井准教授講話） ・授業観察
6月	
7月	・指導授業（各学年） 授業後臼井准教授から指導 ・日本語指導教室の取り組みについて（日本語教室 弥城先生）
8月	・1学期の授業から「わかりやすい授業づくり」について（臼井准教授）
9月	・指導授業 事後指導（臼井准教授）
10月	・授業検討会（指導案検討） ・指導授業（各学年） 授業後臼井准教授から指導
11月	・指導授業 授業後臼井准教授から指導 ・日本語指導研究研修会にて授業公開
2月	・指導授業 授業後臼井准教授から指導

- ・ 大切にしてきたことは、授業の流れをシンプルにし、子どもたちにとって学習の過程をわかりやすいものにするることである。とくに学習の中で「書く・聞く・話す・考える」という活動をバランスよく取り入れることに気がついた。また、学習の流れをパターン化することにより、少ない発問でも子どもたちが見通しをもって活動を進めることができるようになった。
- ・ 日本語指導研修で授業を積み重ねた学級では、子どもたちの書く力が伸びたことがわかった。文章を書くことへの抵抗感が減り、書く量が飛躍的に伸びた子もいた。そこには、このことばを使うと表現できるという「キーワード」を毎回指導するという教師の工夫があった。

13 今後の課題

- ・ 書く力を伸ばした子どもたちが、これからは自分の考えを友だちと交流させるために、進んで話すことができるようにしていかなければならない。
- ・ 臼井准教授に指導していただいたことを教師がお互いの授業でもアドバイスできるように、授業を磨きあえる研修体制を整え、ことばを意識した授業づくりができるようにしていきたい。

第2学年〇学級 算数科学習指導案

授業者 ○○ ○○ □□ □□

1. 日時 平成24年11月27日(火) 5校時
2. 単元 「三角形と四角形」
3. 単元の目標
 - ・点と点をつないでいろいろな三角形や四角形をつくろうとする。身の回りから三角形や四角形をみつけたら、長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めて模様をつくったりする。(関心・意欲)
 - ・三角形、四角形の弁別について、直線の数に着目して考えることができる。辺の長さや直角に着目して、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を考えることができる。(数学的な考え方)
 - ・点と点をつないで三角形や四角形をつくる。紙を折って直角や長方形、正方形をつくったり、方眼紙に長方形、正方形、直角三角形をかいたりすることができる。(表現・処理)
 - ・三角形、四角形、及び、長方形、正方形、直角三角形の意味を理解し、これらを弁別することができる。(知識・理解)
 - ・つなぐ、かこむなどの図形を構成するために必要な学習言語を理解することができる(指導計画参照)。
4. 指導にあたって

子どもの様子

○素直で明るい子が多く、笑顔で授業に参加している。

○友だちに優しく、ペアでの話し合いやグループでの活動もなかよく取り組んでいる。

○九九はほとんどの子がはじめて学び(事前に覚えている子はほとんどいなかった)、時間をかけて覚えていくごとに自信をつけた。

●進んで発表をする子は多いが、自分の考えに不安をもち、思いつくことがあっても発言しない子もいる。

●課題につまずくと、思考が固まってしまう、切り替えができない子もいる。

●計算問題に時間がかかり、まだ指を使っている子もいる。

●手指の巧緻性が低い子が多く、長さの学習では、なかなかものさしをうまく扱えずに、直線をひこうとすると、ものさしがずれて線が曲がってしまう子もいた。

☆Kさん(母語:フィリピン語)入学時に来日。生活言語もままならないので、会話の理解があいまい。読み書きは、ひらがなも難しく、視写も困難である。分かりたいという気持ちはあり、個別にかかわると、一生懸命に指示されたことに挑戦している。

教材について

- ・1年生 いろいろなかたち かたちづくり
- ・2年生 はこのかたち
- ・3年生 三角形・・・本単元の学習からのつながり

} つながり

・点と点を直線でつないで三角形や四角形をつくる点と直線での構成だけでなく、紙を切って三角形や四角形をつくる面構成など、三角形と四角形の概念を形成する。

・子どもたちは、ものさしを使って直線を引くことが得意でない。点と点を結ぶ直線を引くことは困難だと予想できる。

・この活動を通して、子どもたちが身の回りの形に興味を持ち、三角形や四角形など直線で囲まれている図形が、学習の中だけでなく、身近なものであるということを感じられるようにしたい。

手立て

・算数的活動(操作活動)を多くとり入れ、図形の概念形成を図る。

・導入では、動物を囲む活動を取り入れ、子どもたちが興味を持って活動できるようにする。

・ワークシートを用いて、読んだり書いたりする活動を繰り返し行い、図形を表すために必要な言葉を確実に覚えられるようにする。

・点をつなぐ活動を多く取り入れ、ものさしの使い方に慣れ、スムーズに直線を引けるようにしたい。

・友達との話し合いの時間を取り入れ、自分の考えを言葉で紹介することに慣れるようにする。また、友達の話し方をまねすることで、説明をするための言葉を使えるようにしたい。

・紙を折ったり切ったり、敷き詰めたりなどの作業では、助け合えるようグループ活動を取り入れる。

5. 評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
身のまわりから三角形、四角形をみつけようとしている。	直線の数、頂点の数、かどの形に着目して、三角形や四角形の特徴を考えることができる。	直線で囲む、点を直線でつなぐ、紙を切って三角形や四角形をつくることができる。	三角形、四角形の意味を理解している。

6. 指導計画

時間	目標	大切なことば	学習活動
1	動物を直線で囲む操作を通して三角形、四角形の定義を知り、三角形と四角形の弁別ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形 四角形 ・ 直線 ・ かこむ かこまれた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点と点を直線で結んでできた形を2つの中間に分ける。 ・ 「三角形」と「四角形」の用語とその定義を知る。 ・ 形を見て三角形と四角形をみつけ、そのわけを説明する。
2	三角形と四角形の点構成、線構成ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点と点を直線でつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点と点を直線でつないで三角形や四角形をつくる。
3	三角形や四角形の紙を2つに切って三角形や四角形をつくり、三角形や四角形についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 辺 ・ かど ・ ちょう点 ・ 2つに切る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の紙を2つに切るとどんな形ができるかを予想し、2つの図形に分け、切り取る。 ・ 2つの三角形、三角形と四角形の形をしたものをみつけ、話し合う。
4	身の回りから、三角形や四角形の形をしたものをみつける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○本の直線で囲まれているので～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部屋のなかで、三角形や四角形をみつけ、そのわけを説明する。
5	かどの形づくりを通して「直角」の定義を知り、身の回りから直角をみつけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙をおる ・ 直角 ・ 三角定規 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙を折って、本やノートの角の形をつくり、「直角」を知る。 ・ 身の回りから直角をみつけて、三角定規でたしかめる。
6	紙の操作を通して長方形をつくり、長方形について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長方形 ・ むかいあった辺 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙を折って長方形をつくることを通して、長方形について理解する。
7	長方形の紙を切って正方形をつくり、正方形について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 辺がかさなるようにおける ・ 正方形 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長方形の紙を切って、できた形のかどの形や辺の長さを調べて、正方形について理解する。 ・ 身の回りから、正方形や長方形の形のものを見つめる。
8	長方形や正方形を2つに分けて直角三角形をつくり、直角三角形について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直角三角形 ・ 辺どうしをあわせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長方形や正方形の紙を2つに分けて、できた形の特徴を、かどの形に着目して調べ、「直角三角形」の用語と定義を知る。
9	方眼紙を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直角になる2つの辺 ・ ちょう点 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作図の仕方を話し合ったり確かめたりする。
10	色紙を並べて長方形、正方形、直角三角形をつくり、その図形になる理由を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 辺の長さがみんな同じだから～ ・ かどがみんな直角だから～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 切った色紙を2枚並べて、長方形や正方形、直角三角形をつくる。
11	長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めて模様をつくり、いろいろな図形をみつけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ しきつめる ・ ここをつなぐと～が見つかります。 ・ もようをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模様を見て、作り方を考え、実際につくってみる。 ・ つくった模様から、いろいろな形をみつけ、発表する。 ・ いろいろな模様をつくる。

7. 本時

(1) 目標

(教科)・動物を直線で囲むという操作を通して、三角形と四角形の定義を知る。

- ・三角形と四角形について調べるとい課題をつかむ。

(日本語) 習得したいことば: 「つなぐ」「かこまれる」「三角形」「四角形」「直線」

(2) 展開

	学習内容と活動	指導の内容と支援 (・) 評価 (○)
1. 課題を把握する	<p>1. 動物の家をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ記号の点と点を直線でつないで動物を囲む。 ・1つの家に1頭の動物がきちんとはいっているのか注意する。 ・点の中心同士をつなぐようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の名前を言わせて学習への意欲を持たせる。 <確認> 「直線はまっすぐ」「点と点をつなぐ」ものさしのおさえ方 ・できるだけ少ない本数で囲むようにさせる。 ・「囲む」とは直線がつながっていて、動物の出口ができないように注意させる。 ・この活動に十分時間をとり、「点をつなぐ」や「囲む」の言葉の意味をとらえさせたい。 <p>○興味を持って動物の家づくりに取り組もうとしている。</p>
2 見通しを立てて問題を解く	<p>2. できた形をなかまわけする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由をワークシートに書く。 ・友だちと相談する。 ・3本の直線 ライオン キリン ワニ ・4本の直線 カバ ゾウ シマウマ 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ形でなかまわけをするように指示する。 ・動物の名前と絵を一致させにくい子のために、番号でなかまわけができるよう、絵に番号をつけておく。 ・つまづいている子には「ライオンと同じものはどれ？」などの探し方を支援する。 ・三角形、四角形という言葉で分けている子には、ほかの言い方でも言えるように助言する。 ・日本語に支援が必要な子のために動物を番号で表し、なかまわけをし易くする。 <p>○仲間分けの理由を友達に話すことができる。</p>
3. 学びあい	<p>3. なかまわけを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談したことをみんなの前で発表する。 「●●●だから～と～は、なかまです」 ・三角形と四角形の定義を知る。 ☆3本の直線でかこまれている形を三角形という。 ☆4本の直線でかこまれている形を四角形という。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カバについては、どちらにも入らないと考える子がいるだろうが、その理由を考えることで囲む直線の数に着目できるようにしたい。 ・「かど」に着目する子がいればとりあげ、次時以降の学習につなげたい。 ・三角形、四角形の用語と定義について、本時の活動と結びつけながらまとめる。 ・「かこまれた」という言葉を、操作を交えながら、直線同士が切れていないことを説明する。
4. まとめ	<p>4. 練習問題をやる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形のなかから、三角形と四角形を見つけだし、仲間わけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲線になっているものや、直線が途切れているものなど、仲間わけに入らないものの理由をワークシートに書きこむ。 <p>○直線の数に着目し、三角形と四角形を弁別することができる。</p>

[学校名：芦屋市立潮見小学校]

【具体的な研究テーマ】

すべての児童にわかる授業づくり 一言語活動の充実をめざして一

1 教科：単元名 算数科「垂直・平行と四角形」	
2 実施日（時期） 平成24年11月7日	3 実施場所 4年1組教室
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 児童の様子…学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など <ul style="list-style-type: none"> ① 4年生 ② 母：中国人、父：日本人 母語は日本語 ③ 在日期間 中国生まれ。4歳で父と来日。 ④ 児童の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・ A 児の来日当初、母親はしばらく中国に在住しており、A 児が幼稚園年中組の時に遅れて来日した。母と離れて育ったことが大きく影響し、低学年までかなり情緒的に不安があった。「日本語が話せない。」とコミュニケーションをとることをこわがり、吃音もあった。 ・ 来日当時はサポーターの支援を受けながら日本語を習得し、周囲とのコミュニケーションを図った。4年生になり、友だちからの呼びかけに答える姿が多くなり、自分からも少しずつ友だちにかかわろうとしている。 ・ 学習の準備物をそろえることができにくいため、学習になかなか集中しにくい。 ⑤ 学習状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ すべての教科を在籍学級で学習を進めている。 ・ 課題に対してまじめに取り組むが、間違ふことをとても怖がり、間違ふと気持ちが落ち込み、学習が止まることがよくある。 ・ 授業中に挙手をして発表することがあるが、全体の場では指示が通らないことが多く、個別の指示が必要である。 ・ 週2時間、日本語指導担当教員が入り込んで指導をしている。また、放課後週4回学習支援教室に行き、復習をしている。計算の意味は分かっているが、「計算のきまり」や「分数」、「何倍になるでしょう」等の言語を介した説明が必要な単元の理解には時間がかかる。 ⑥ 日本語習得状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生の終わりに「中国語は忘れてもう話せない。」と言った。日本語での日常会話は困っていない。 ・ 聞き取りはできるが、話す時に言葉の使い方が間違っていたり、助詞がぬけていたりする。話す文も短い。文を書くときに、拗音・促音・助詞がぬける。本人が間違いに気づく機会が少ないため、書いたことを読み返したり、音読をしたりすることを大事に行っている。 ・ 物語の筋や内容は理解できているが、テストの設問の意味がわからなかったり、答え方がわからなかったりする。 	

(2) 日本語指導にかかる目標

- ① 落ち着いてゆっくりはっきりと話す。
- ② 正しく音読する。
- ③ 助詞や拗音・促音に気をつけて文を書く。
- ④ 主語・述語のねじれのない文を書く。
- ⑤ 問題を正しく読んで解くことができる。

(3) 主な学習活動

- ① 2直線の並び方の違いに着目し、その交わり方を予想する。
- ② 2つの直線について調べ、平行の意味を理解する。
- ③ 平行な2直線を説明しながら作る。

5 評価の観点

(1) 教科に関して

- ① 2直線の交わり方を調べ、平行の意味を理解することができる。
- ② 垂直や平行な直線を身の回りからみつけることができる。

(2) 日本語指導に関して

- ① 落ち着いてゆっくりはっきりと話す。
- ② 正しく音読する。
- ③ 助詞や拗音・促音に気をつけて文を書く。
- ④ 主語・述語のねじれのない文を書く。
- ⑤ 問題を正しく読んで解くことができる。

6 指導内容の概要（※指導案別途添付）

別添指導案のとおり

7 指導内容・方法において工夫したところ

- (1) 垂直や平行を唱えながら体で表現させる。
- (2) 教科書と同じ色の直線の棒を用意し、何度も操作しながら、垂直・平行について声に出して説明させる。
- (3) 発言しやすいようにターゲットセンテンスを提示する。
- (4) 既習内容が分かる視覚的な掲示物を残しておき、次時に生かす。

8 教材・教具

- (1) ワークシート
- (2) 色の違う直線の棒
- (3) 2本の長い直線（平行は2つの直線が交わらないことを実感させるため）

9 活動の様子（写真等）

- (1) 小グループになり、学習したことを確かめる。
- (2) 操作をしながら、垂直や平行を説明し、聞き合う。



10 児童・生徒の感想等

何度も具体物を操作しながら声に出して説明することで、A児だけでなく、他の児童も理解が確かなものになった。「三角定規や棒とかを置きながら言ったら、平行の定義が言えた」「ああ、こういうことか。言いながら動かすとわかりやすいね」などという声があがり、次時の垂直や平行な直線をかき学習でも三角定規の操作の理解がスムーズであった。

11 日本語習得度チェックシートの活用と効果など

- (1) チェックを行うことで本人が自分の日本語が正しいかどうか意識していく機会になった。
- (2) 本人が、自分の日本語が合っているか間違えているかを考えるようになり、日本語について質問してくるようになった。前はできなかった問題ができるようになったことをチェックシートで確認することが自信につながっている。
- (3) 教師自身が具体的に児童の課題をとらえることができる。

12 実践を通しての成果

- (1) 日本語の目標を設定して取り組んだことで、教師の説明が少なくなり、児童の発言や活動する時間が増えた。
- (2) 実際に活動していることを言語化しているので、興味を持ちながら理解を確かなものにしていくことができた。
- (3) 学習したことが見てわかる板書を心がけるように教師間での共通理解が進んでいった。また、板書と同じワークシートが児童の理解に役立つことがわかった。

13 今後の課題

- (1) すべての教師がわかる授業を意識できるように組織的に取り組んでいくこと
- (2) 毎時間、どの授業でも無理なく続けていくことから始めること
- (3) 授業のねらいを明確にし、日本語の目標について理解すること

第4学年1組算数科指導案

指導者 ○ ○ ○ ○

1 平成24(2012)年11月7日(水) 5校時

2 単元名 「垂直・平行と四角形」

3 教材名 教科書教材 「垂直・平行と四角形」(新興出版社啓林館4年下)

4 単元の指導目標(全13時間)

直線の位置関係に着目して、垂直・平行の関係を考察し、台形や平行四辺形、ひし形の図形の特徴や性質を理解させる。

- ① 身の回りから垂直・平行の関係にある直線や台形、平行四辺形、ひし形の形を進んで見出したり調べたりできる。(関心・意欲・態度)
- ② 直線の位置関係に着目して、垂直・平行の関係にあることや台形、平行四辺形、ひし形の特徴、相互の関係を考えることができる。(数学的な考え方)
- ③ 垂直・平行の関係にある直線や台形、平行四辺形、ひし形をかくことができる。(技能)
- ④ 垂直・平行の意味や台形、平行四辺形、ひし形の特徴・性質を理解できる。(知識・理解)

5 評価規準

- (1) 身の回りから垂直・平行の関係にある直線や台形、平行四辺形、ひし形の形を進んで見出したり調べたりしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 直線の位置関係に着目して、垂直・平行の関係にあることや台形、平行四辺形、ひし形の特徴、相互の関係を考えている。(数学的な考え方)
- (3) 垂直・平行の関係にある直線や台形、平行四辺形、ひし形をかいている。(技能)
- (4) 垂直・平行の意味や台形、平行四辺形、ひし形の特徴・性質を理解している。(知識・理解)

6 本時の目標(第2時間目)

- (1) 2直線の交わり方を調べ、平行の意味を理解することができる。
- (2) 垂直や平行な直線を身の回りから見つけることができる。

【日本語の目標】

- (1) 「交わる」「交わらない」「直角」「垂直」など図形の学習をするときに必要な用語を理解することができる。
- (2) 「1つの直線に垂直に交わる」という言葉を使って平行を説明することができる。

7 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 規 準
<p>1 2直線の並び方の違いに着目し、その交わり方を予想する。</p>	<p>・2つの直線は交わるかどうかをまずは直感的に判断させる。予想後、実際にのばして確かめる。</p>	<p>・直線の位置関係についてイメージをもつことができる。 (観察・発言)【関】</p>
<p>直線あ と い、直線いとうをのばすと交わりますか。</p>		
<p>2 2つの直線について調べ、平行の意味を理解する。</p>	<p>・2つの直線が「交わる」「交わらない」という状態を垂直の概念を用いて明らかにする。</p>	<p>・平行の概念を理解することができる。(発言・ワークシート) 【知・理】</p>
<p>直線い に垂直な直線 A と直線あ 直線う の交わり方を調べよう。</p>		
<p>・1つの直線に垂直になっているのは、いだけなので、あといは交わる。 ・1つの直線に、いとうの2つの直線が垂直になっているので、いとうは交わらない。</p>	<p>・垂直の意味をおさえるために視覚的な掲示物を提示する。</p>	
<p>3 平行な2直線を説明しながら作る。 「1つの直線に垂直な2つの直線は平行あるとといいます。」</p>	<p>・教科書と同じ色の直線の棒を用意し、操作させる。 ・直線 A と直線い・うを置き、三角定規を使って垂直を確かめさせる。</p>	<p>・垂直に交わっているということを言いながら、直線を置くことができる。 (観察・発言)【知・理】</p>
<p>4 学習のまとめをする。 ・見つけた垂直や平行な直線について直線 A と三角定規を操作しながら説明する。</p>	<p>・三角定規で必ず確かめるように声をかける。 ・「直線 A に直角に交わっているので2つの直線は垂直である。」 「直線 A に垂直だから2つの直線は平行である。」を提示する。</p>	<p>・身の回りから垂直や平行を見つけることができる。【関】</p>

[学校名：伊丹市立天神川小学校]

【具体的な研究テーマ】

コミュニケーション力の育成

1 教科：単元名 国語：物語文 「わらぐつの中の神様」	
2 実施日（時期） 平成25年1月8日～1月23日	3 実施場所 5年1組教室
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 児童の様子・・・学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など <ul style="list-style-type: none"> ・ 第5学年に在籍 ・ ネパール国籍 ・ 約2年半日本で生活している。 ・ 日本語は、日常会話はある程度理解し話すことができ、生活言語は身につけてきているが、学習言語については、学習してもなかなか習得できない。 ・ 使いこなせる漢字は2年生の1学期程度である。 (2) 日本語指導にかかる目標 <ol style="list-style-type: none"> ① 使いこなせる（読める）漢字を増やすことを中心とした学習言語の習得 ② 日本語を使って、自分の思いを表現すること (3) 主な学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読 ・ 物語の内容の読み取り ・ 物語を読んで感じたことを発表 	
5 評価の観点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら日本語の物語を読もうとし、内容を読み取ろうとしたか ・ 物語を読んで感じたことを、友達に伝えることができたか 	
6 指導内容の概要 教室（同室複数指導） <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読 ・ 感じたことを教科書に書き込む。 ・ グループで感じたことを話し合う。 ・ クラス全体で感じたことを話し合う。 別室指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 物語に出てくる漢字の学習 ・ 音読の練習 	

7 指導内容・方法において工夫したところ

- ・ あらかじめ物語に日本語の読み仮名をふり、教室での学習の前に、別室で音読の練習を行った。
- ・ 意味のわからない言葉はあらかじめ教え、教室での学習時には内容に集中できるように工夫した。
- ・ 話し合うポイントなど、担任の教師が全体指導した際に、適宜わかりやすく伝えた。

8 教材・教具

- ・ 日本語でルビをふった教材文

9 活動の様子（写真等）

- ・ 音読ではゆっくりではあるが、文を正しく区切りながら読んでいた。
- ・ 感じたことを発表する場では、まだ恥ずかしがり堂々と発表できないでいる。



10 児童・生徒の感想等

- ・ 教室での国語の学習は難しく、別室での漢字の学習の方が良い。
- ・ みんなの前で発表するのは、間違っているかもしれないから恥ずかしい。
- ・ 漢字が読めたら、教室で本読みしたりするのも嫌ではない。

11 日本語習得度チェックシートの活用と効果など

児童は、日本語習得度チェックシートの内容をほとんど習得できている。

これまでは、教師が授業や男児との日常会話をとおして、主観的に日本語能力を把握していたため、日本語習得度チェックシートを活用することにより、男児の日本語の習得状況が客観的に把握でき、正しく理解していないところなどが明確になった。

今後は、チェックシートの結果から見られる課題について、個別指導を行っていく。

12 実践をとおしての成果

- ・ 事前に音読の練習を取り入れたり、漢字の読み方を知ったりすることで、授業の内容に集中できた。
- ・ 1、2学期から読み書きを中心に学習しており、使える日本語が増えてきたことで、自ら文を読もうとしたり、友達の発表を聞こうとするようになった。
- ・ 友だちの音読を聞く際に、児童が自ら文を指でなぞりながら聞いていたので、学習に積極的に取り組む姿勢を認めた。
- ・ サポートなしで1人で学習したいと言うようになり、わからない漢字や言葉が出てきた時に自分から教師に聞くことができるようになってきた。
- ・ 教師の指示がなくても、自分の感じたことを知っている日本語を使って書くようになった。

13 今後の課題

授業中のグループ活動における話し合いの場面等では、聞かれたことに対して、「うん」または「ちがう」と答えるだけのことが多い。教師のきめ細やかなサポートにより、児童が自分の考えを簡単な日本語でもいいので伝えられるよう、支援していく必要がある。

[学校名：姫路市立琴陵中学校]

【具体的な研究テーマ】

日本語指導を工夫したわかりやすい授業づくり

1 教科：単元名 社会科 世界の姿（緯度と経度）	
2 実施日（時期） 10月11日（木）	3 実施場所 日本語指導教室
<p>4 児童・生徒の実態に応じたねらい</p> <p>(1) 生徒の様子…学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など 日本語指導対象生徒は、フィリピン語を母語にもつ中学2年生であり、中学1年生時の5月に渡日・編入してきた。卒業後、高校進学を希望しており、学習態度は前向きで概ね良好である。ノートの取り方もていねいになってきているが、板書を写すことに精一杯の状況であり、内容理解までには至っていない。 学習面では、特に、漢字の音読み訓読みの違いが難しくつまづきを見せている。普段の生活の中では、基本的な生活言語、簡単な会話文についてはほぼ習得できている。相手の話している内容については、かなり理解できるようになってきているが、自分の考えや思いを十分に伝えることはできない。</p> <p>(2) 日本語指導にかかる目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書文中の地理学習言語について、読み書きができるようにする。 ・ 世界のさまざまな位置を緯度、経度を使って適切な日本語で表現できるようにする。 ・ 学習内容のふりかえりができるように、キーワードやターゲットセンテンスをノートやワークシートにまとめ、繰り返し音読できるようにする。 <p>(3) 主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を音読しながら、読めない言語にふりがなをふる。 ・ 地図や地球儀に表示されている縦の線（経線）、横の線（緯線）を確認する。 ・ 緯度、経度のしくみを理解する。 ・ 世界各地の位置について、緯度、経度を使ってターゲットセンテンスで表現する。 	
<p>5 評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図や地球儀に親しみ、世界のさまざまな地点の位置を表すことに関心を持つ。 ・ 緯度、経度のしくみに関わる地理用語を身につけるとともに、その意味を理解している。 ・ 母国の首都マニラをはじめ、世界各地の位置を緯度、経度を使って表現できる（書いたり、発表したりできる）。 	

6 指導内容の概要（※指導案別途添付）

- ・ 母国では、世界地理の学習をほとんどしていないので、地球儀や世界地図を活用して、世界地域を大観させる。
- ・ 地球儀や世界地図に表示されている横の線と縦の線に気づかせる。
- ・ 緯度、経度の基準となる赤道と本初子午線の位置を確認させる。
- ・ 北半球、南半球、東半球、西半球の区分を半ボールと模式図で理解させる。
- ・ 緯度と経度が赤道や本初子午線を基準とした角度で表されていることを知り、緯度、経度のしくみを理解させる。
- ・ 同じ緯度を結んだ線を緯線、北極と南極を結んだ線を経線として世界地図や地球儀に表示されていることを理解させる。
- ・ 北緯、南緯、東経、西経という地理用語を覚え、ワークシートにある都市の位置を緯度と経度を用いて表し、発表させる。発表の仕方は、「〇〇（都市名）の位置は、〇緯〇° 〇経〇° です。」と発表させる。
- ・ 母国の首都マニラの位置を、世界地図で探し、緯度、経度を用いて表現させる。

7 指導内容・方法において工夫したところ

- ・ わかりやすい日本語と短い文での発問を心がけた。
- ・ 用語カード、世界地図、地球儀、写真、図などを活用し、視覚的な学習支援を行った。
- ・ ワークシートを作成し、学習内容をまとめやすくした。また、学習の振り返りもしやすいようにした。
- ・ 緯度、経度を同時に用いて位置を表すことが難しいと思われるので、緯度のみ、経度のみと調べさせ、その後、緯度と経度を同時に表す練習をした。
- ・ 東半球と西半球の区分が理解しにくいので、世界地図を円筒形にして180°で東経、西経に分かれることを視覚的に指導した。その際、身近な国々が東半球、西半球のどちらに位置するか調べさせ発表させた。
- ・ 用語パネルを見ながら、各都市の位置を緯度、経度を用いて発表させた。
- ・ キーワードとなる学習言語の読み書きを家庭で練習するプリントを作成し宿題とした。
- ・ 聞く、読む、書く、発表するという学習活動を1時間の授業の中にバランスよく取り入れることに留意した。

8 教材・教具

- ・ 用語カード
- ・ 半ボールを2個合わせた地球の模型
- ・ 地球儀
- ・ 世界地図
- ・ 緯度、経度を用いた発表の仕方を示す基本本文パネル



9 活動の様子（写真等）

- イラストを使って動詞や形容詞の語彙を増やす学習活動を取りだし授業で行っている。また、その語彙を使って、簡単な文を作り、それを読む練習をしている。漢字で書くときは、自分で辞書を引かせ、調べる習慣をつけさせている。



- 教科書を読み、読めない漢字にふりがなをつける。用語カードや模式図、地図を使って視覚的に学習支援ができるように工夫し、ワークシートで確認問題を行い、授業の中で評価できるようにした。また、各都市の位置を緯度と経度を使って表現できるように基本文パネルを提示して発表させた。



- 授業の様子を大阪教育大学の臼井准教授に参観していただき、日本語指導についての支援の方法や留意点を助言していただいた。

10 児童・生徒の感想等

- 取りだし授業では、わからないところを質問しやすいので、授業の内容を理解しやすい。
- 未習内容を補充的に学習できるのでテストを受けるときに助かる。
- 教科書の学習を通して日本語の勉強もできる。知らない漢字も読めるようになってきたのでうれしい。
- ワークシートなどを活用するのでノートをまとめやすい。
- いろいろな日本語表現を覚えて、文章（日記）が書けるようになってきた。これから、もっと漢字の読み書きができるようにしたい。

11 日本語習得度チェックシートの活用と効果など

- ・ 各学期の終わりに日本語習得度チェックシートを活用して日本語の習得状況を確認している。漢字や日本語基本文型がどれだけ習得できているかを判断する資料として扱っている。
- ・ 習得レベルの変化から指導内容や指導方法の改善に役立てている。
- ・ チェックシートをテスト形式で行い、採点することで評価としても扱い、学期末の保護者会等での懇談資料として有効活用している。
- ・ 生徒自身がどれだけ日本語力を身につけているのか確認することができる。その結果を踏まえて、今後の学習について、職員間で日本語力向上に向けての課題を共有できる。

12 実践をとおしての成果

- ・ 未習の学習内容については、取り出し授業で個別指導を行った。その際、ノートの取り方、プリント・ワーク類の活用などの学習方法について、きめ細やかな指導を行うことができた。この個別指導の時間は、中学校の学習スタイルに慣れない外国人生徒にとって、学習の基盤となる習慣づくりの場として有効であった。
- ・ 取り出しの授業中心から在籍学級での一斉授業で学習する時間、教科を増やしていった。学習内容も教科書にそって教科型の日本語指導を実践した。授業では、外国人生徒が理解しやすいように学習ポイントの明確化、視覚的な学習支援、構造化した板書を心がけた。その結果、外国人生徒だけでなく他の低学力の生徒にも学習内容の理解度を高め、学級生徒の基礎基本の定着という観点からも効果を広げることができた。
- ・ 在籍学級で授業を受けることで、定期考査では他の生徒と同じようにテスト(ルビうち)を受けた。試験後、結果が点数となって表れると、次のテストではもっと良い点数をとりたいという意欲を見せた。テストに向けてより学習意欲を高めていくことが、自分の進路を切りひらく力へと発展していくことにつながっている。
- ・ 授業以外では、生活ノートの5行日記を日本語で文章を作って書くようになった。漢字を積極的に使ったり、自分の気持ちを表現できる語彙を探したりと表現する意欲が高まった。

13 今後の課題

- ・ 日本語指導に関する授業研究や校内研修を計画的・継続的に推進し、各教科担任が日本語指導を工夫したわかりやすい教科指導をより進んで実践できるような環境づくりを検討していく。
- ・ 日本語指導担当者が外国人生徒と幅広くかかわる中で得られた情報(教科学習上のつまづきや心の不安など)を広く教職員に発信し、共有することで生徒理解に努める。
- ・ 卒業後の進路を保障するためにも、よりきめ細やかな教科指導が教科書を通して実践できるように教科担任と日本語指導担当が連携を深めていく。
- ・ 年度途中から編入してきた外国人生徒に対して、未習の学習内容を補完的に学習サポートできるように教職員が協働して行える支援体制を構築する。
- ・ 教科担任制の中学校の授業で、より効果的な教科型日本語指導ができるような時間割を年度当初に編成する。
- ・ 自立した学習ができるまでには、かなり努力が必要であり時間がかかると思われる。家庭学習の習慣化も含めて学力の定着を図る効果的な手立てを検討する。

日本語指導 社会科学習指導案

指導者 ○ ○ ○ ○

1. 単元 世界の姿

2. 単元設定の理由

- 本単元は、地理学習のスタートとなる単元であり、世界全体の姿を大観することをねらいとしている。入学当初、日本語の初級指導を受けていた対象生徒にとっては、地理学習の導入部分となる。世界地図や地球儀などを活用した学習活動が中心となるため、地理のおもしろさを実感したり、興味・関心を高めることに適している。
- 日本語指導対象生徒は、フィリピン語を母語にもつ中学2年生であり、中学1年生時の5月に渡日・編入してきた。入学当初は、全く日本語が話せない状況であったが、現在は、挨拶などの基本的な生活言語をほぼ習得している。漢字の読み書きは、小学校中学年程度で、特に、音読み、訓読みの使い分けが難しい。世界地理に関しては、母国では、ほとんど学習を受けていない。来日してからもニュースや世界を扱っているテレビ番組などは、あまり視聴していない様子で、世界に関する知識を得ることはほとんどない状況である。中学校卒業後の進路については、高校に進学したいという希望を持っており、授業では、前向きに取り組む姿勢が見られる。しかし、一方で、家庭での学習習慣の未定着や言葉の壁による学習言語の理解度不足など課題も多くかかえている。
- ことばによる説明だけではとらえにくい学習内容が多いので、世界地図をはじめ、地球儀や写真、図などを活用し、視覚的な学習支援を行いたい。また、白地図に書き込んだり、統計資料を使って調べたり、できるだけ活動の時間を確保することで、生徒が主体的に学習できるように配慮したい。

3. 目 標

- 教科指導の目標
 - ・ 地球儀や世界地図を活用して、地球上の位置の表し方や地面上の位置関係をとらえる技能や知識を身につけさせる。
 - ・ 地球儀や世界地図を活用して、世界の地域区分や国々の名称と位置などをもとにして、世界の地域構成をとらえ、おおまかな世界地図をかけるようにさせる。
- 日本語指導の目標
 - ・ 教科書文中の読めない漢字を読めるようにさせる。
 - ・ 地理用語が読めて、内容を理解させる。

4. 指導計画（5時間）

第1次	地球をながめて	1時間	
第2次	世界のおもな国	1時間	
第3次	緯度と経度	1時間	（本時分）
第4次	地球儀と世界地図の違い	1時間	
第5次	世界の略地図	1時間	

5. 本時の目標

- 教科指導の目標
 - ・ 緯度や経度のしくみを理解させ、それらを使って国や都市などの位置を表せるようにさせる。
- 日本語指導の目標
 - ・ 母国の首都であるマニラをはじめ、世界の都市の位置を緯度と経度を使って、適切な日本語で書き、説明できるようにする。

6. 準備物

地球儀 模式図 フラッシュカード 白地図 ワークシート

7. 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
<p>1. 赤道、北極(点)、南極(点)を地球儀と白地図で復習する。</p> <p>2. 緯度、経度のしくみを理解する。 ○緯度のしくみを理解する。</p> <p>○ワークシートにある都市の緯度をシートに書き、発表する。</p> <p>○経度のしくみを理解する。</p> <p>○ワークシートにある都市の経度をシートに書き、発表する。</p> <p>3. 母国の首都マニラをはじめ白地図上の都市の位置を緯度・経度を使って表す。</p> <p>4. 本時の学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図や地球儀を使って確認させる。 ・赤道を赤ペンでなぞる。 ・北極点、南極点にシールをはらせる。 ・教科書P10の3行～6行を音読させる。 ・読めない漢字にふりがなをつけさせる。 ・重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。 【緯度、北緯、南緯、緯線】 ・地球を横から見た図を使って、緯度の角度をとらえさせる。 ・ワークシートに緯度を書かせ、ターゲットセンテンスに習って発表できるようにする。 ○○(都市名)の緯度は、○緯○°です。 ・教科書P10の7行～P10の5行を音読させる。 ・読めない漢字にふりがなをつけさせる。 ・重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。 【経度、東経、西経、経線、本初子午線】 ・経線の基準(0°)が本初子午線であることをおさえる。 ・地球を上から見た図を使って、経度の角度をとらえさせる。 ・東側、西側にはどんな国があるか調べさせ、東経(東半球)、西経(西半球)の区分をとらえることができるようにする。 ・ワークシートに経度を書かせ、ターゲットセンテンスに習って発表できるようにする。 ○○(都市名)の経度は、○経○°です。 ・調べる都市が北半球、南半球のどちらに位置するか、本初子午線より東側、西側のどちらに位置するかをとらえさせてから緯度・経度を調べさせ、ターゲットセンテンスに習って発表できるようにする。 ○○(都市名)の位置は、 ○緯○°、○経○°である。 ・本時の学習でおさえておきたい重要語句、内容をノートにまとめるようにする。 ・フラッシュカードを使い、重要語句の読み・書きを繰り返し練習できるようにする。 	<p>地球儀 白地図 地図帳</p> <p>模式図 フラッシュカード</p> <p>ワークシート</p> <p>模式図 フラッシュカード</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート 模式図 地図帳</p> <p>フラッシュカード</p>

